未来予想図（みらいよそうず）

寝屋川市立梅が丘小学校　　２０２３・１１・２０

校長室通信　　No.　３４

この世の中で一番価値（かち）のあるものは・・・？

みんなは、この世の中で一番、価値のあるものは、いったい何だと思いますか？
お金？　ダイヤモンド？　かっこいい車？
確かに、そういったものには、大きな価値があるかもしれませんね。でも、それらにはすべて、「かわり」があります。世の中にたった一つのものではありません。世の中にたった一つのものこそ、この世の中で一番、価値があるものだと思います。
世の中でたった一つしかないもの、そしてその中でも、一番、価値があるもの・・・。
それは、「みんな、一人ひとり」です。

みんなの手の指には、指紋（しもん）がありますが、自分と全く同じ指紋の人は、世界中どこを探してもいないと言われています。現在だけではなく、過去、未来においても、同じ指紋の人はいないと言われています。過去、現在、未来を通して、みんなは、たった一度きりの存在です。だからこそ、自分の命、そして、人の命を大切にしなければならないのです。

でも、残念ながら、人が生きていく中で、悲しい思いをしたり、心が傷ついたりすることがあります。人にいやなことを言われたり、無視されたりすると、心が傷つきます。そして、その傷は、なかなか治りません。なぜなら、心の中にある傷には、薬が塗れないからです。
転んでケガをしたときには、薬を塗ることができますが、心の傷には、薬は塗れません。だからこそ、**人の心を傷つけることは、絶対にしてはいけないのです！！**

そんな中、傷ついた人の心の傷を治す薬が、たった一つだけあります。
それは・・・、みんな一人ひとりの「言葉」です。もし、心に傷を受けた人を見かけたら、ぜひ、「優しい言葉」で元気にしてあげてください。「温かい言葉」で、幸せにしてあげてください。「親切な言葉」で、助けてあげてください。
みんなには、「言葉」という薬で、この世の中で一番価値のある、「一人ひとり」を、ぜひ大切にしていってほしいと思っています。

メダルより図書券がほしい

―「中田語録」より―

今から 20 数年前、「中田 英寿（なかた ひでとし）」というサッカー選手がいました。1996 年に開催されたオリンピック（アトランタ五輪）に出場したときには、優勝候補であったブラジルを破った試合（※のちに、マイアミの奇跡とよばれました）で活躍したこともあり、日本サッカーの司令塔、そしてまた、アジア史上最高のサッカー選手の一人とも言われた名選手です。
彼が、サッカーのスーパースターとして活躍していた当時、本屋さんで買った「中田語録」という本を、先日、家の本だなから引っ張り出し、改めて読んでみました・・・。
その本に掲載されていた中田選手の 30 の言葉の中から、２つを紹介します。

「基本があれば、１を１００にだってできる」

中田選手は、この本の中で、「サッカーの技術とは、足でボールを蹴り、コントロールして、めざした場所へ蹴る、ただそれだけのこと」と語っています。
さらに、「ミスをするから相手にチャンスを与えることになる。そのミスをしないのが一番大切なこと。確実なプレーができるようにするには、練習するしかない。「派手で美しいプレーを見せようと思ったら、地味な練習を死ぬほどしないと。基本があれば、１を 100 にだってできる。基本がない選手は、いつか消えていく」とも言っています。
中田選手が練習で一番時間をさいていたのは、最も地味な対面パスだったそうです。
ふたり１組になって、パスを出し合う練習を、何千回、何万回とくり返すことが、一流選手を支える最大の力だったのかもしれません。

「メダルより、図書券がほしい」

中田選手は、人にすすめられた本や、本屋さんで目についた本は、迷うことなく、すぐに買ったそうです。そして、自宅の寝室に置いたり、遠征に持っていくトランクに入れたりして、暇さえあれば、本を読んでいたそうです。
中田選手は、「試合の前、それぞれの選手は、集中力を高めるためにいろんなことをするでしょう。俺には、読書が合っているみたい」とも語っています。彼の華やかなプレーは、読書で得た力によって支えられていたのかもしれません。

中田英寿選手の華やかさのプレーの陰には、「パスという地味な基本の練習」と「毎日の読書」があったことが、とても驚きでした。
しかし、だからこそ、「世界の中田」と呼ばれるまでに活躍できたのかもしれません。
梅が丘小学校のみんなも、勉強や習い事をはじめ、どんなことにおいても大切なのは、あくまでも「基本」であること、そしてまた、自分自身を成長させるためには、「本を読むこと」が大切なことを知ってもらえればと思います。

【参考文献】「中田語録」 発行書・編者：文芸春秋　文：小松成美